



News Letter

琉球大学広報誌

2021 October Vol.29



琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

Island wisdom, for the world, for the future.

<https://www.u-ryukyu.ac.jp/>

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

TEL.098-895-8175 kohokoho@acs.u-ryukyu.ac.jp

[目次]

●注目! 琉大生 02

人文社会学部 2年次
島袋 鈴菜さん

●特集Ⅰ: 03

「奄美大島、徳之島、
沖縄島北部及び西表島」
のユネスコ世界自然遺産登録

学長メッセージ

寄稿「世界自然遺産と琉球大学」
琉球大学名誉教授 横田昌嗣

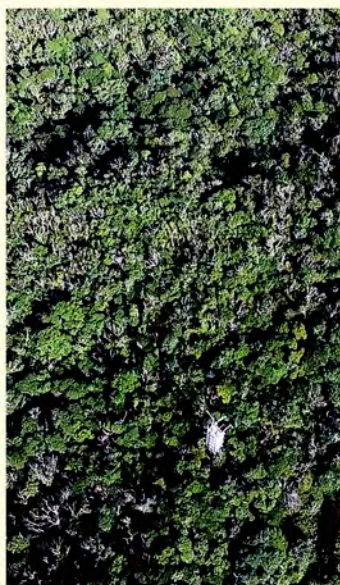
研究紹介

理学部 立原一憲 教授
国際地域創造学部 大島順子 准教授
熱帯生物圏研究センター 内貴章世 准教授
農学部 高嶋敦史 助教
博物館(風樹館) 佐々木健志 助教

●特集Ⅱ: 大学歴史パネル 09

●ニューズピックス 11

●基金だより 13



国連教育科学文化機関
(ユネスコ)の第44回
世界遺産委員会において、「奄美大島、徳之島、
沖縄島北部及び西表島」
の世界自然遺産への登
録が決定されました。

本学は沖縄島北部の
遺産登録地域内と西表
島の遺産周辺管理地
域内に教育研究施設を有し
ています。

表紙は、沖縄島北部の
農学部附属亜熱帯フィー
ルド科学教育研究センタ
ー(与那フィールド)です。

※P03から特集ページ



注目!琉大生



島袋 鈴菜さん

Shimabukuro Rena

PROFILE

人文社会学部 2年次

沖縄県出身

島袋さんは、令和2年4月に念願の大学へ入学。しかし、コロナ禍のため、思い描いていた授業やサークル活動は全て叶わない大学生活のスタートとなってしまいました。そんな毎日を変えるために、商品開発やボランティア、プロジェクトに積極的に取り組んできました。

その一つが「サボまる(サポート丸わかり)」というアプリ作成プロジェクトです。このプロジェクトは社会福祉における課題である“情報が行き渡らないために、存在する支援を利用することができない”問題に着目し、それらの情報が簡単に手に入るアプリをつくらう!というものです。開発当初は、その専門的知識のなさや、外注するとした場合の費用から不可能と思われた案でしたが、様々な人たちの協力を得ることで実際に形にでき、最終的にweb公開を果たしました。

このプロジェクトを通して島袋さんが特に感じたことは、“熱い思いを持って行動すれば支えてくれる人がいること”です。これは今の島袋さんのモチベーションにつながっています。

指導教員の田中将太先生(人文社会学部)は「1年次の頃からコロナ禍であっても、積極的に人との交流の機会を模索している姿が印象的で、興味のあることにはまず行動し、新たな出会いからさらに世界を広げていけるパワーの持ち主です」と振り返ります。そして、総合大学である琉球大学の強みを生かした、島袋さんの共感と参加を創造するアクションに期待を寄せています。

島袋さんは「時代が変化していくなかで、日々新たな社会問題が生まれており、そのなかで私には何が出来るかを常に考えています。今はまだできることに限りがありますが、これからいろいろなことを学び、経験することでその限界がなくなるのではないかと期待しています」と、前向きです。また「大学を大きな成長の場にして、全ての人が幸せだと思える社会づくりに貢献していきたい」と今後の抱負を話してくれました。

さて、島袋さんは次にどんなアイデアを実現してくれるのでしょうか。



「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」

学長メッセージ

この度、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の第44回世界遺産委員会において、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産への登録が決定されました。国内からは5件目となる登録で、まことに喜ばしく、ここまで努力を重ねてこられた関係者および地元地域、沖縄県、環境省・政府に心から敬意を表します。

琉球大学は、沖縄島北部の遺産登録地域内と西表島の遺産周辺管理地域内に教育研究施設を有するとともに、長年にわたってこの地域の自然の研究と教育に深く携わってきたこともあり、特別な思いをもってこの朗報を受け止めています。

私たちは、今回の決定により、この地域の自然を適切に保護し、保存し、次の世代へと継承していく責務を国際的にも負うことになりました。このことに、改めて思いを致すものです。本学では、先にも述べたように、この地域の貴重な動植物や自然環境を守り育てつつ学生教育を行うとともに、地域の人材育成にも貢献してきました。また、固有の生態系や生物多様性の把握、その管理方法に関する研究等を行ってきました。これらは、地域にある貴重な自然の価値を科学的な観点から正確に把握し、それを後世に伝えていくための大切な基礎作りだと考えています。一方、この地域では、観光客の増加に伴うオーバーツーリズムに対応する適正な観光管理の実現、ヤンバルクイナやイリオモテヤマネコ等の希少種のロードキルの防止、包括的な河川再生、さらに緩衝地帯における森林伐採の適切な管理等、多くの課題も指摘されており、これらを総合的に把握し、解決していくことが不可欠です。

本学は地域に貢献する大学という立場から、引き続き地域社会や国際社会と協力し、教育研究を通じて、周辺地域を含む世界自然遺産登録地域の生態系や生物多様性を将来世代に引き継ぐための努力を惜しまぬ所存です。

2021年7月26日
国立大学法人琉球大学
学長 西田 睦



」のユネスコ世界自然遺産登録

Topic

琉球大学は令和3年8月19日(木)に、沖縄県、学校法人沖縄科学技術大学院大学学園、国立研究開発法人国立環境研究所生物多様性領域、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所九州支所、林野庁九州森林管理局沖縄森林管理署長及び環境省沖縄奄美自然環境事務所と「沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産登録地における保全管理等のための連携と協力に関する協定」を締結しました。

この協定は、世界自然遺産登録地のうち沖縄島北部及び西表島において、全当事者の連携のもと、長期的な調査研究を促進し、両島の自然環境・文化等に関する科学的・専門的知見を蓄積していくことによりモニタリングや科学的な管理の基盤を整備し、世界自然遺産登録地における保全管理等に貢献するとともに、これらの知見やフィールドを活用し、世界自然遺産登録地の保全管理等の担い手としての若い世代や地域の人材の育成を図っていくことを目的とするものです。



世界自然遺産と琉球大学

横田 昌嗣 (琉球大学名誉教授)



2020年に世界遺産委員会で審議されるはずでしたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延で会議が1年間延期され、2021年のWEB審議となったのです。遺産候補地と見なされてから、指定まで実に40年近くかかったこととなります。世界遺産には文化遺産と自然遺産があり、日本の文化遺産は国際的にも高く評価されていますので、今後も指定が続く可能性が高いですが、自然遺産は世界的にもほぼ飽和状態にあり、今回の5番目の指定がおそらく最後になると思います。

世界遺産の登録基準は全部で10ありますが、そのうち6つは文化遺産に関するもので、自然遺産の登録基準は4つです。今回の遺産は、登録基準10の「学術上又は保全上顕著な普遍的価値を有する絶滅のおそれのある種の生息地など、生物多様性の生息域内保全にとって最も重要な自然の生息地を包含する。」で選ばれました。具体的には、これらの島々は1500万年前からの大陸との分離・結合や約170万年前からの気候変動に伴う海水準の変動を繰り返した地史を反映し、大陸島における陸生生物の侵入と隔離による種分化の進行中の過程を明白に表す顕著な見本であることが高く評価されました。推薦の際には推薦書提出

2021年7月26日「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)の第44回世界遺産委員会で世界自然遺産として正式に採択されました。この遺産指定に際しては、琉球大学在職時に多少関わりを持ちましたので、その経緯と琉球大学との関わりについて紹介したいと思います。

国際条約の「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約(略称:世界遺産条約)」は、ユネスコ総会で1972年に採択され、1975年に発効しました。最初に指定された世界自然遺産は、ガラパゴス諸島です。日本は1992年に条約の締結国となり、屋久島(鹿児島県、1993年登録)、白神山地(青森県・秋田県、1993年)、知床(北海道、2005年)、小笠原諸島(東京都、2011年)が世界自然遺産として登録されました。日本政府(主体は、環境省と林野庁)が当初から推薦候補地としてきた“琉球諸島”(推薦書作成時は、「奄美・琉球」と呼称)は、2017年に上記の長い名称で推薦書がユネスコに提出されました。世界遺産は、「人類が共有すべき普遍的な価値」を持つ必要があります。日本の自然環境を考えると、北海道、東北、九州、小笠原、琉球と全域から満遍なく推薦されていることが判ります。日本人にとっては身近な自然であっても、世界的に見ると非常に重要な価値を持っていることが、このことからもうかがえます。

2017年提出の推薦書については、ユネスコから幾つかの解決すべき問題点が指摘され、日本政府は推薦をいったん取り下げ、さまざまな対策を施した後、2019年に推薦書を再提出しました。推薦された遺産候補地は、本来なら

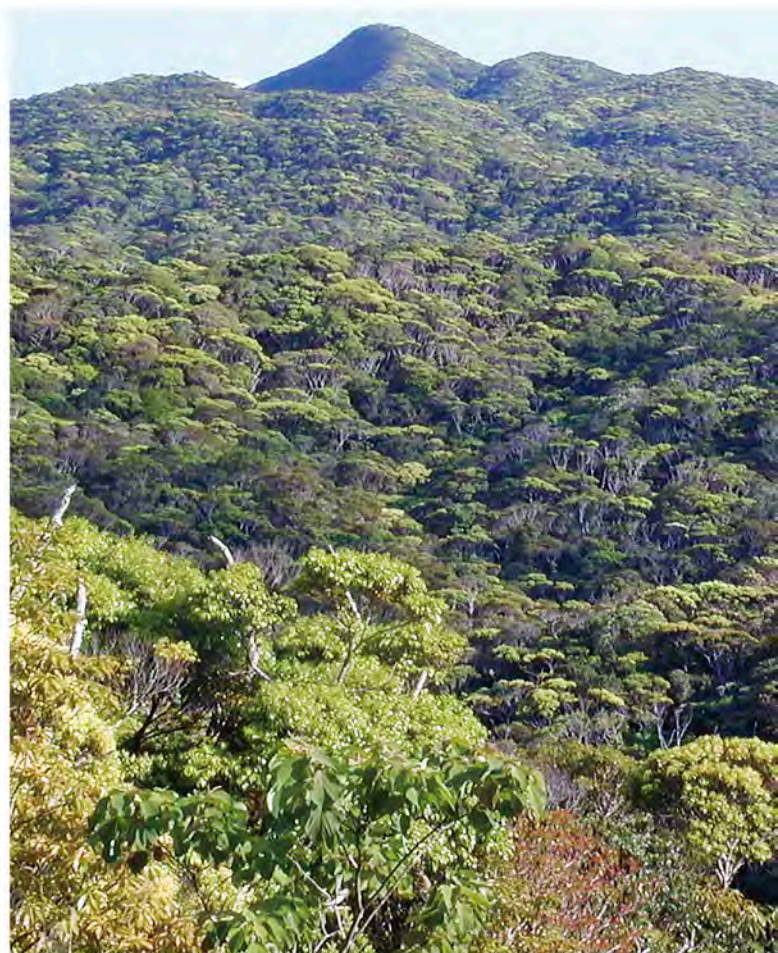


図1. 沖縄島北部(やんばる)の指定地域。伊部岳と普久川流域(手前)が見えます。

が必要ですが、推薦書は日本政府が主催する「世界遺産科学委員会」が中心となって作成します。「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の科学委員会は、14名の委員から構成されていますが、そのうち6名は琉球大学の職員(元職員を含む)です。筆者は、維管束植物の多様性と進化の観点から、委員として参加しました。科学委員会では、遺産の名称をどうするかから始まり、どの島のどの地域を候補地とするか、普遍的価値として何を強調するか、その科学的根拠は何か、遺産を維持するために何が必要か、などについて長く審議をしました。その内容については、長くなりますので詳しくは書けませんが、さまざまな分野の専門家が知恵を絞って考えましたので、その際の議論は自分自身の視野を広げるためにも役に立ちました。科学委員会以外に、世界自然遺産指定に関係するさまざまな委員会があり、その委員会にも多数の琉球大学の職員が関わっています。

世界自然遺産に指定するという事は、日本政府が遺産を責任を持って守ることを意味します。遺産がさまざまな国内法で守られることは喜ばしいのですが、多数の観光客の利用による自然の劣化や居住環境の悪化などが危惧されていて、指定に関して多くの反対意見がありました。遺産



図2. 国頭村の与那フィールドで初めて発見され、与那フィールドが唯一の自生地とされた、やんばる固有種のホシザキシヤクジョウ(タヌキノシヨクダイ科)。花はサンゴのポリプのように見えますが、単子葉植物の仲間で、光合成をせず、葉も持ちません。花の直径は5mm程度で、落ち葉の中に埋もれるようにして咲きます。ごく最近になって、大宜味村からも見つかっています。筆者らの研究で、この種はタヌキノシヨクダイ科の中でも、非常に原始的な種であることが判ってきました。

の指定は決まったものの、持続可能な観光管理についてはまだ十分な管理計画ができあがっていないのが実状です。遺産指定の際に世界遺産委員会(世界遺産科学委員会とは別物)から多くの問題提起がされていて、それらをどう解決するかについて、検討と回答が求められています。遺産の価値が失われると、指定を解除される例も国外では知られています。最初の自然遺産であるガラパゴス諸島も一時期「危機遺産」に指定され、指定解除が検討されたこともありました。今回の遺産地域には、他の遺産と異なり多数の人が住んでいますので、今後も試行錯誤しながら保全対策を考えていくことになるでしょう。

琉球大学は、西原キャンパス外に幾つかの研究施設を持っていますが、沖縄島北部の国頭村と那にある農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センターの与那フィールドや、西表島上原にある熱帯生物圏研究センターの西表研究施設の一部は、今回の世界自然遺産の指定地(推薦区域および緩衝地帯)を含んでいます。これは、大学に居ながらにして世界遺産に接することができるという利点になりますが、同時に自然遺産を守る責任も発生します。世界自然遺産に指定されたものの、まだこれらの地域の学術的価値は十分に解明されたとは言えません。今後も研究が進めば、世界を驚かせるような生物や生命現象が発見される可能性があります。琉球大学が、この世界自然遺産の学術的価値の解明に一層貢献して欲しいと願っています。



やんばるの数多くの固有種や希少種が生息・生育しています。

世界自然遺産に登録された「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」地域における生態系・生物多様性分野に関する研究をしている本学の研究者を紹介します。



魚を追って島から島へ、奄美大島、沖縄島北部、西表島の河川に潜る

たちはら かつのり

立原 一憲 (理学部海洋自然科学科生物系 教授)



私は、魚類の生活史を研究しています。主な調査地(奄美大島・沖縄島北部・西表島)が、世界自然遺産に認定された場所であることから、自然遺産にも関わらせて頂きました。

奄美大島では、リュウキュウアユの個体群動態を調べています。奄美大島のリュウキュウアユは、一時期、絶滅の危機に直面していましたが、地元住民の熱心な保護活動の結果、その頃に比べると個体数が増えてきました。沖縄島北部では、福地ダムのリウキュウアユ陸封個体群を25年間、毎月、潜水観察しています。沖縄島のリウキュウアユは1970年代に絶滅し、現在の個体群は、沖縄島への蘇生を目的に奄美大島から移入したものです。

西表島の浦内川では、汽水域から淡水域に生息する魚類群集、特に河川に遡上するオオメジロザメを中心に研究しています。流程19.8kmの浦内川には、我が国に生息する魚類の約10%にあたる400種を越す魚類が生息しています。この河川の魚類群集の多様性は、特筆すべきものであり、世界自然遺産にふさわしい生態系であると言えます。



西表島浦内川におけるオオメジロザメ調査



大学院生とともに西表島浦内川の調査に向かう

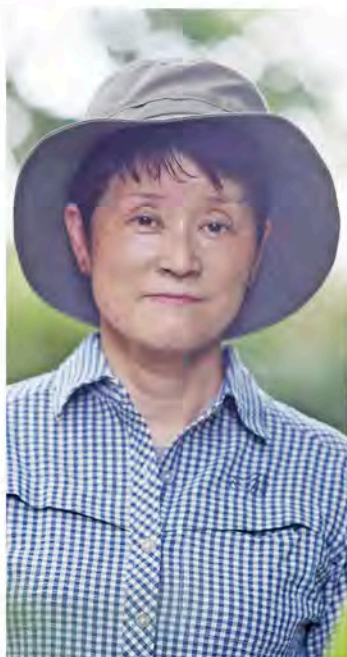


西表島船浦で仔稚魚を採集中の大学院生

地域における世界自然遺産教育の推進～人類の財産として次世代に守り、活かし、伝えていく学びの場づくり

おおしま じゆんこ

大島 順子 (国際地域創造学部国際地域創造学科 准教授)



世界遺産は自然科学や人文科学、社会科学などの分野を包括し、生涯にわたって学習できるテーマです。今回登録されたエリアは、多くの希少種が生息しており、生物多様性保全上、世界でも重要視される地域です。研究対象としている沖縄島北部(やんばる)は、亜熱帯の森に依存した人々の営みが生活文化として残る地域であり、人間活動の影響が受けやすい場所です。

経済効果が注目され、世界遺産ブランドの人氣が過熱している昨今ですが、世界遺産は観光を目的とした制度ではありません。世界遺産は人類の普遍的な財産を次世代に引き継ぐ責任を各国が負うものであり、地域が世界遺産の価値に気づき、それを次世代に伝える責任があることを当事者として理解する必要があります。当事者意識をどのように育むか、学習内容や方法、そして学習成果について、学校教育のみならず社会教育における学びの場づくりの視点から世界自然遺産教育の実践研究に取り組んでいます。



世界自然遺産登録地の今を自分の目で確認する公開講座



密猟や密採の夜間パトロール



自治体職員を対象とした世界自然遺産を学ぶ研究会

西表島の植物相解明をめざして

ないさ あきよ

内貴 章世 (熱帯生物圏研究センター西表研究施設(島嶼多様性生物学部門) 准教授)



西表島は「島のどこに、どんな植物が分布しているのか」、という基本的な植物相情報が4島の中では圧倒的に不足しています。観光客の増加による植生・希少種への影響が懸念されているにもかかわらず現状把握がされていないため、科学的な進展と政策基盤データ整備の両面で早急な植物相調査が必要です。

そこで本研究では、従来の植物相研究で行われてきた踏査によって植物を収集することに加え、1km²あたり1個の5m×100mの調査区を森林内に設置し、そこに出てくる維管束植物を全て記録(樹木は計測)し、標本とDNA解析用試料の作成を行っています。この網羅的・定量的な調査を西表島の210地点において実施し、全維管束植物の最新の分布・生育地情報、植生データ、絶滅危惧種・侵略的外来種の将来分布予測等を整備します。これらのデータは、一般財団法人沖縄美ら島財団とともに準備を進めている植物誌出版の際の基礎情報のみならず、より効果的な絶滅危惧植物の保全や侵略的外来種防除のための政策に生かせると考えています。



5m×100m調査区内での樹木の計測



植物標本の作製

やんばるの森の特徴を知り、適切な保全と利用につなげる

たかしま あつし

高嶋 敦史 (農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター(与那フィールド) 助教)



世界自然遺産に登録された沖縄島やんばる地域には、さまざまなタイプの森が広がっています。第二次大戦後から伐採されずに残った、自然度の高い森は多くありません。一方で、その周辺には、伐採後に再生した二次林や人工林などが広がっています。それぞれの森における樹木の状態や、希少な動植物の分布など、基本的な特徴を明らかにしていくことが重要です。

私たちの研究では、遺産地域の森の長期モニタリングや、希少野生動植物が生存するための要素の検討、さらには遺産地域の周辺での林業手法の検討などに取り組んでいます。台風被害を受けた森がどのように再生するか、希少野生生物が利用する樹洞はどのように形成されているか、持続的で環境負荷の少ない林業にはどのようなアプローチが必要かといった知見が、少しずつですが蓄積されてきています。森を対象にした研究は長い時間を要しますが、今後も長期的なビジョンで取り組んでいきたいと考えています。



遺産地域の森の長期モニタリング



大径木に発生した樹洞



遺産地域周辺の人工林管理

沖縄の世界自然遺産地域に生息する希少昆虫類の保全生態学的研究

ささき たけし

佐々木 健志 (博物館(風樹館) 助教)



今回、奄美と沖縄が世界自然遺産に登録された主な理由は、この地域のずば抜けた生物の種多様性の高さと固有種の多さにあります。特に昆虫類は、島嶼間での種分化が進行しており、島ごとに多くの固有種・亜種に分化しています。一方で、それらの昆虫類の中には、生息場所の減少や乱獲などによって個体数が減少し、絶滅が心配される種も少なくありません。世界自然遺産地域には、環境省レッドリストに掲載されている絶滅危惧種の約10%が集中しており、これらの種の保全が自然遺産登録への大きな課題となっていました。

風樹館では、環境省や九州大学などと協力し、世界自然遺産地域の希少昆虫類の保全に関する研究を実施しています。特に、ヤンバルテナゴコガネについては、20年以上におよぶ継続的な研究によって、本種の保全対策に不可欠な様々な生態情報を提供してきました。世界自然遺産の登録は、同時にこの地域の生物多様性保全の責務を我々が担うことでもあり、本学のさらなる貢献が求められています。



ヤンバルテナゴコガネの雌雄



イリオモテボタル雌の抱卵



樹洞モニタリング調査



倒木からのテナゴコガネの救出

開学記念歴史パネル及び開学の鐘

開学70周年記念事業の一環として、琉球大学開学記念歴史パネルの作成及び開学の鐘の修復を行い、風樹館（博物館）に展示しました。70周年記念事業募金へ寄附いただいた方ならびに関係者へ感謝いたします。



<展示内容>

歴史パネルは二部構成とし、右側には戦後から1950年の琉球大学の開学に至るまでの歴史を、左側には開学から現在まで70年の学部変遷の歴史を紹介しています。また、パネルの下に展示ケースを設け、開学時に時鐘として使用されていた米軍使用済みのガスボンベ（開学の鐘）や歴史資料の現物の展示を行っています。



<展示ケース左側>

「本学は、日本のものでもなく、米国のものでもない。～」との序文で始まる開学当時の学生便覧、開学や10周年、琉球政府への移管（1966年）を記念して発行された切手、図書館の建設資金を得るために琉米親善委員会*が発売した宝くじ、本学の学章の変遷に関する資料などを展示しています。*米軍統治下の沖縄で、米国民政府が実施した「琉米親善事業」を推進するために設置した委員会。



<中央>
 首里城跡地にキャンパスを構えていた首里キャンパス時代に男子寮で使われていた半鐘として風樹館に保管されていたものです。
 男子寮で使用される前に、開学の鐘の代わりに旧日本館前で使用されていた可能性も考えられています。



<展示ケース右側>
 1950年5月22日、本学の第1回入学式で開学を告げる鐘として打ち鳴らされた米軍使用済みのガスボンベです。
 1957年5月21日にセルフタイマーが導入されるまでハンマーで叩かれて時を告げた鐘です。また、1956年の図書館の火災の際には職員が慌ててハンマーが見つからず、石で乱打して皆さんにお知らせしたこともあったそうです。

UR Topics

[4/6]

令和2年度琉球大学入学式・大学院入学式及び令和3年度琉球大学入学式・大学院入学式を挙行



[4/21]

THE大学インパクトランキング2021で本学がSDG1(貧困をなくそう)など3つのカテゴリーで国内4位タイ、世界で101-200位を獲得

SDGsカテゴリー	世界ランキング	国内ランキング
SDGs1(貧困をなくそう)	101-200位/591校	4位タイ/36校
SDGs14(海の豊かさを守ろう)	101-200位/379校	4位タイ/41校
SDGs15(陸の豊かさを守ろう)	101-200位/402校	4位タイ/39校
総合ランキング	601-800位/1115校	33位タイ/73校



[6/30]

第3期中期目標期間(4年目終了時)の業務の実績に関する評価で最高評価「特筆すべき進捗状況」を獲得



[8/7]

琉球大学【公式】ラジオ「琉大やいび〜ん!」放送開始



琉球大学大学院「地域共創研究科」(修士課程)令和4年(2022年)4月開設

現在の人文社会科学研究科(博士前期課程)と観光科学研究科を再編し、教育学研究科の一部の教員も合流して新たな研究科が設置されます。



【特設ページ】新型コロナウイルス感染症に関するお知らせ等のまとめ

本学が公式HPに掲載した新型コロナウイルス感染症に関するお知らせの記事等をまとめたもので、随時更新しています。



ISO9001/ISO14001 認証取得

(ビル設備管理、病院医療関連業務、建物の清掃業務、警備業務、総合建設業)

トップクラスの技術が見守る、安心感



日本総合整美株式会社

代表取締役 古川 祐起

沖縄本社:沖縄県豊見城市豊崎3番地26 代表番号:098-840-2777 FAX:098-840-2780

【中部営業所・那覇営業所・浦添営業所】【先島営業所・東京本社】

琉大オリジナルマスク



■琉球大学オリジナルマスク(2枚1組) **¥1,980** 税込

琉球大学エンブレムとコミュニケーションマークをプリントしたオリジナルマスクの販売を開始しました。

お揃いのマスクで一体感を生み出してはいかがでしょうか？

※収益の一部を琉球大学基金への寄附とさせていただきます。

※密な場所や病院など、より注意が必要な場所は不織布マスクとの併用を推奨します。

販売サイト



緑豊かな自然に囲まれた読谷村の工場で作っています。



大学基金だより

2020年度事業報告

琉球大学基金（一般基金＋特定基金）収支

	収入		支出	
	受入件数	受入額	事業支出額	次年度繰越額
2020年度	704件	20,800,625円	18,897,950円	259,771,554円
2019年度	494件	20,165,955円	59,799,594円	257,868,879円
2018年度	536件	13,766,872円	39,848,110円	297,502,518円
2017年度	446件	311,589,818円	6,897,410円	323,583,756円

2020年度 支援事業 実施状況

	実施内容	事業支出額
岸本遺贈基金	・海外協定校への交換留学制度による留学生の支援：2名 ※新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、計画を大幅に変更	600,000円
修学支援基金	・貸与奨学金（返還免除）：58名 ・経済的理由による学資金支援：41名	3,883,950円
QUEST基金	【国際交流事業】 ・短期交換留学生（派遣）支援：6名 ・短期交換留学生（受入）：5名 ・正規外国人留学生の受入支援：9名 ・太平洋島嶼地域留学生の支援（新規）：1名 ・海外留学準備支援：39名 【学生生活支援】 大学院学生の学会発表等支援：10名 不測の事態に係る支援：1名 ※「採択人数」は複数年度で支援する者を含む。 また、「支出額」は、2019年度採択者の2020年度支出額を含む。	13,826,000円
結転生 （ゆいまーる） 基金	附属病院雇用：1名 資格取得：2件 メディカルクラーク（医科） 調剤報酬請求事務	588,000円

合計額：18,897,950円

お問い合わせ先



琉球大学基金室

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1

☎098-895-9013

✉ kikin@acs.u-ryukyu.ac.jp

琉球大学基金



Orion

OKINAWA'S CRAFT

沖縄県産
伊江島産
大麦使用

沖縄クラフトの
澄みと旨み。

飲酒は20歳になつてから。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は、おいしく、適量にのんだあとにはリサイクル。

オリオンビール株式会社
<https://www.orionbeer.co.jp/>

【芳名簿】

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、社会全体が困難に直面する中、多くの方より、本学へ多大なご支援を賜りました。心よりお礼申し上げます。

本号では、令和3年2月から7月までに、琉球大学基金へご寄附いただいた際に同意をいただいた皆さまのご芳名（五十音順・敬称略）を掲載させていただきます。

法人

アメリカ認定非営利団体岸本ファミリー個人慈善基金
ベッド通販セラピス

個人

有銘 工	草野 智洋	高山 和則	仲本 千佳子	三沼 仁
石田 明夫	久高 友大	武田 昌則	楠城 治和	宮尾 徹
井上 章二	小池 真由美	田里 友治	西田 睦	宮城 茂
浦崎 直光	木暮 一啓	筒井 正人	新田 早苗	本村 真
大屋 祐輔	再田 優子	土井 歩	萩野 敦子	山本 好
菊澤 拓	篠原 里美	東矢 光代	比嘉 盛也	吉武 登
宜野座 綾乃	城間 弘充	中西 浩一	平川 浩	
木村 匠	菅井 尚子	仲間 伸恵	船越 裕和	
木本 一史	高江洲 伊知子	仲村 大	平敷 昭人	他36名

【寄附方法】

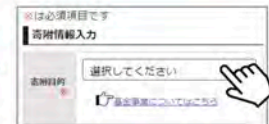
ご寄附の際には、基金の名称を寄附目的に沿ってお選びください。なお、本基金へのご寄附は、「寄附金控除」の対象となり、個人は「所得控除」、法人は「全額損金算入」が適用になります。

オンラインによるご寄附

STEP 1 琉球大学基金Webサイトより、「寄附をする」をクリック。
<http://www.kikin.jim.u-ryukyu.ac.jp/>



STEP 2 「寄附情報入力画面」から、寄附先の基金をお選びいただき、引き続き寄附情報をご入力の上、クレジットカードによる決済をご利用ください。

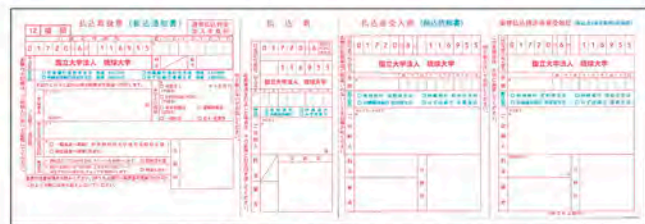


※定期的（毎月、年2回、毎年）に定額をご支援いただける継続寄附も承っております。

振込によるご寄附

STEP 1 琉球大学基金室へメール又は電話でお問い合わせください。右記の払込取扱票（振込用紙）を郵送いたします。

STEP 2 払込取扱票の通信欄に加え4票ともにお名前、入金額等の必要事項をご記入の上、ゆうちょ銀行・郵便局又は指定振込先金融機関の本支店窓口にてご利用ください。



※所定の用紙以外からの振込は、寄附先の確認等に支障をきたすため、上記の払込取扱票をご利用いただきますようお願い致します。



美ら島の宝を未来へ

“かけがえのない宝を共に守り、未来へ繋げるために”
私達は世界自然遺産エリアの保護活動を推進しています。

そばにいるから、できることがある。

JP POST 日本郵便



郵政創業150年



#3 並里 成 選手

#14 岸本 隆一 選手

#24 田代 直希 選手

全保連は、琉球ゴールデンキングスを応援しています。



あなたにホッ

全保連株式会社

家賃債務保証業者 登録番号 国土交通大臣(1)第16号



◀ 家賃債務保証の解説ページはこちら



『家賃債務保証』ってなんだろう？